

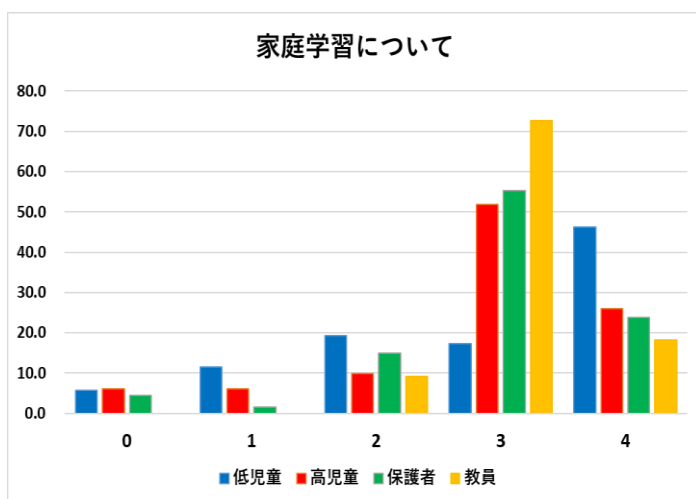
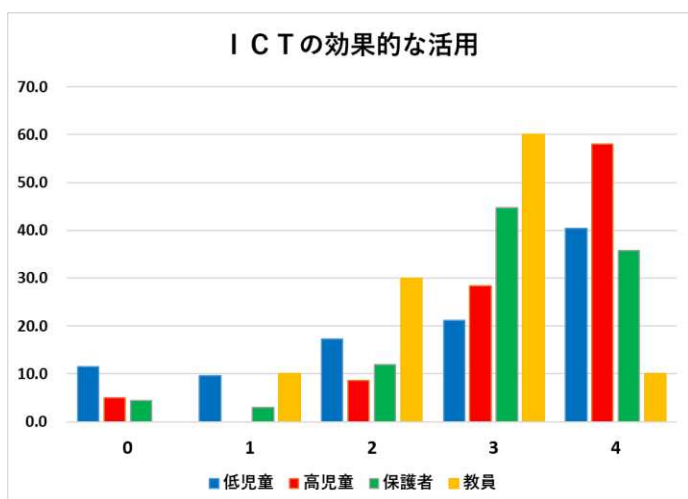
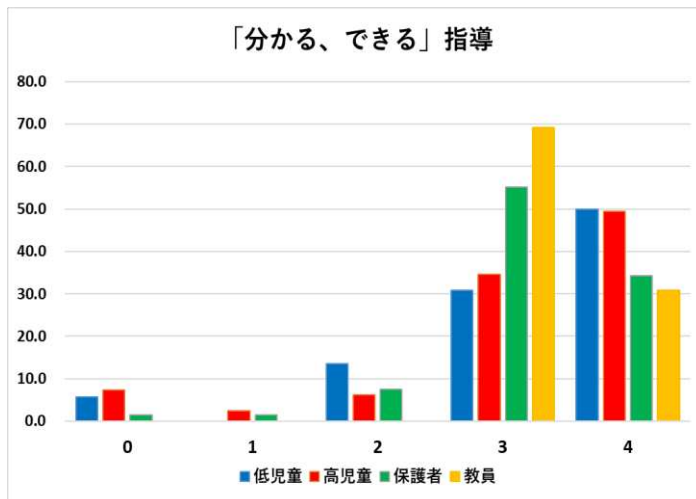
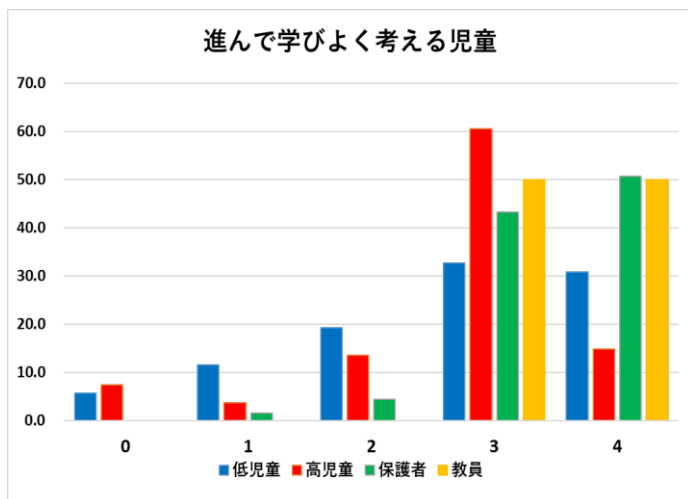
令和7年度

# 学校評価アンケート結果



湯前町立湯前小学校

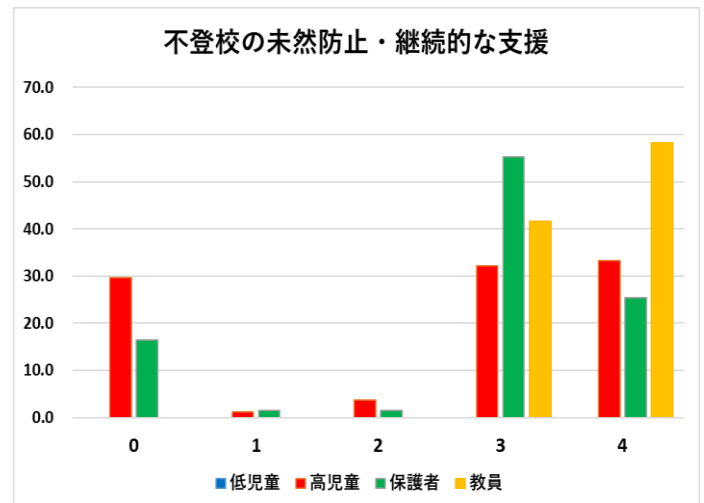
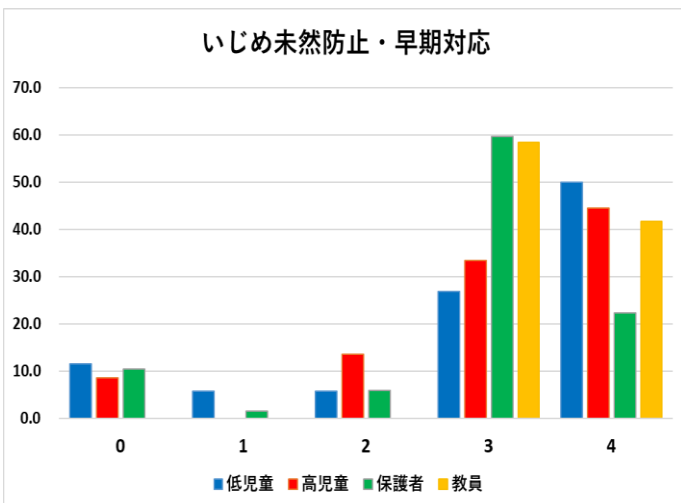
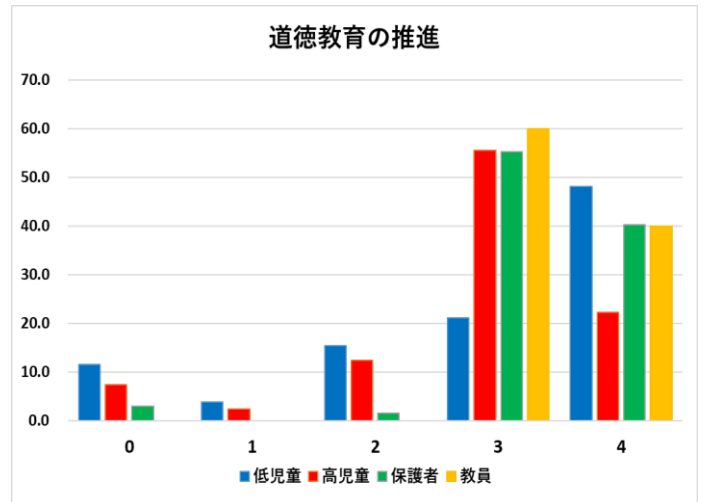
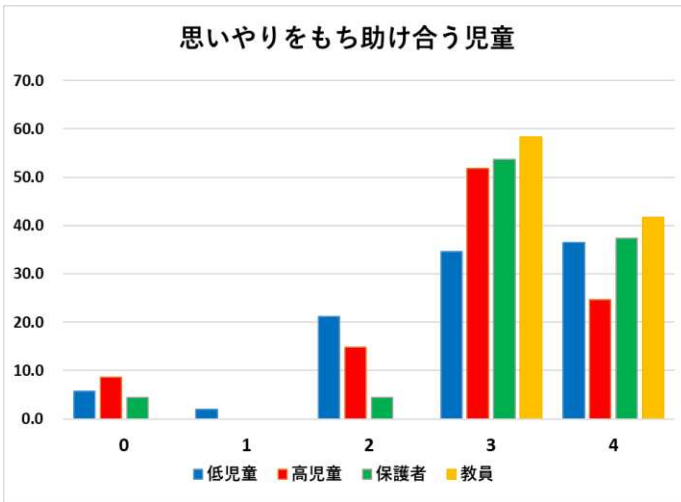
# 1 確かな学力の育成



## 【成果（○）と課題（△）】

- 「進んで学びよく考える児童」については、評価3以上の割合が保護者と教員で9割を超えている。
- 「分かる、できる指導」については、児童・保護者・教員ともに評価3以上が8割を越えており、校内研修を通じた授業改善・授業力向上の取組が、児童や保護者にも伝わっていることがうかがえる。
- △「進んで学びよく考える児童」については、昨年度より児童の評価がやや下がっている。「できた・わかった」がより実感できる授業づくりなど、学ぶ意欲を高めていくことが次年度の課題である。
- △「ICTの効果的な活用」については、職員の自己評価がそれほど高くない。授業の中での活用はされているものの、効果的に使えているという手ごたえには至っていない。校内研修を通じて活用方法を共有するなどしながら、授業改善・活用スキルの向上につなげていく。

## 2 豊かな心の育成

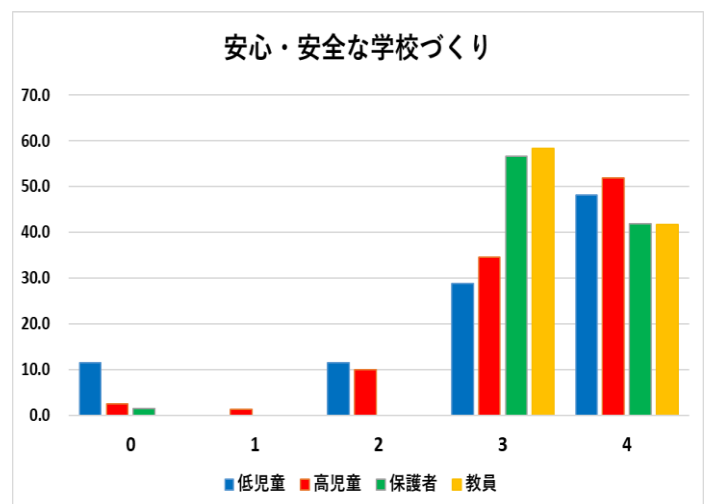
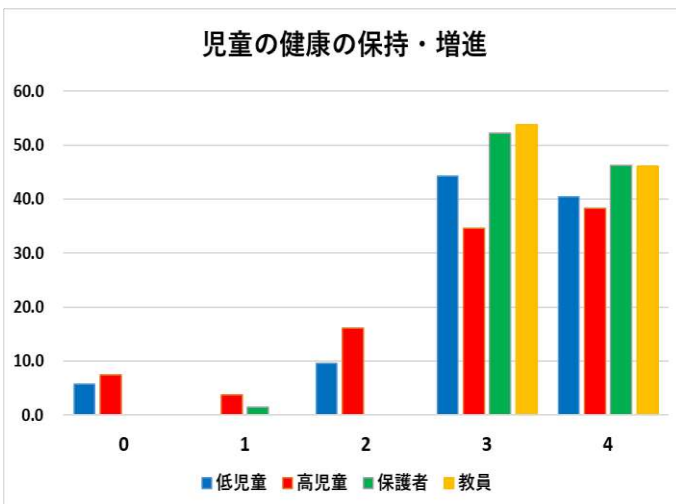
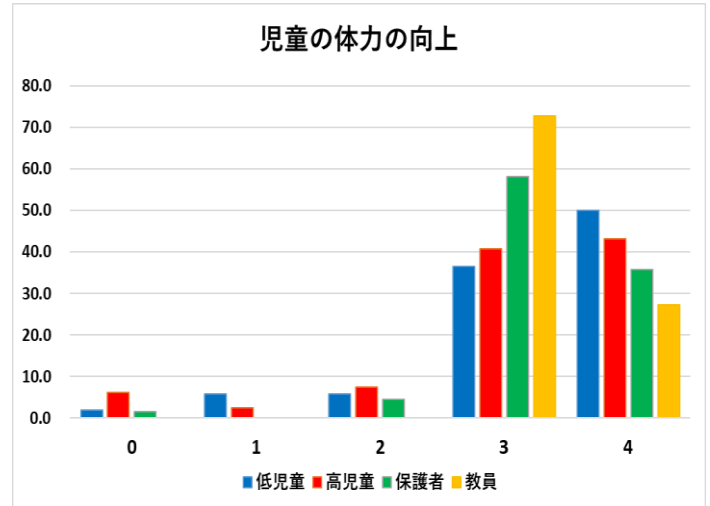
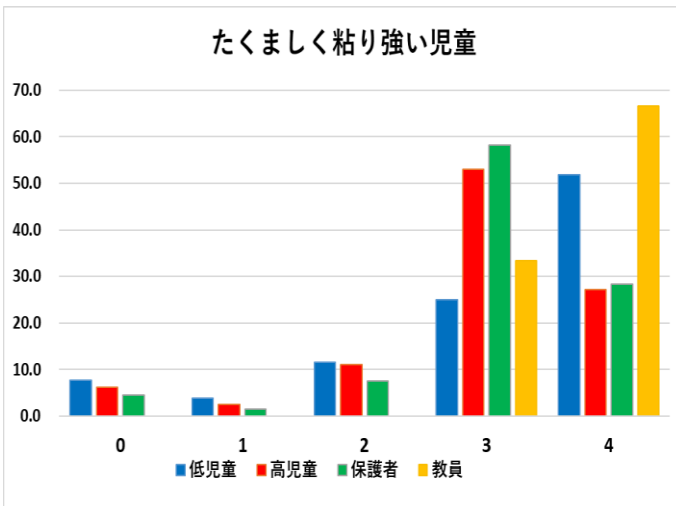


### 【成果 (○) と課題 (△)】

- 「思いやりをもち助け合う児童」について、評価3以上の割合が保護者と教員で9割を超え、昨年と同様に全体として概ねよい評価が得られている。職員が昨年度以上に意識を高めて取り組みを進め、保護者もそれをよく評価していただいていることがうかがえる。
- 「不登校対応」については、低学年は実施していない。保護者の評価は、前年度からさらに5%の伸びがみられ、8割を超えた。職員の評価も100%となった。3年間の取組で不登校児童が0になり、本校の取組が家庭にもしっかりと浸透してきている成果と考える。

△児童・保護者ともに「わからない」とする回答が一定数いるが、これは不登校にどのように対応しているか、当事者でなければ取組状況が見えづらいということも影響していると考えられる。評価1, 2の回答は数人ずついるので、0を目指して引き続き取り組んでいく。

### 3 健康な体の育成



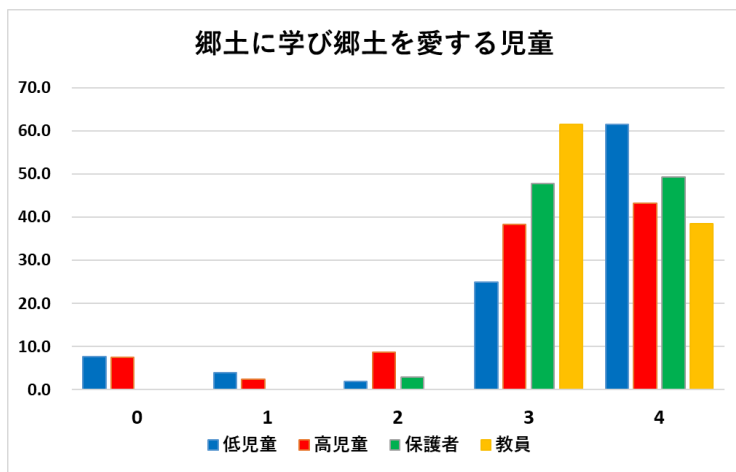
#### 【成果（○）と課題（△）】

○「たくましく粘り強い児童」の割合は8割を超え、「児童の体力の向上」「児童の健康の保持・増進」「安心・安全な学校づくり」については、保護者・教員の肯定的な評価が9割を超えている。昨年と同様に概ねよい評価が得られている。

○体力向上のための「1学校1チャレンジ」の取り組みや避難訓練（引渡し訓練等）等の計画的な実施、食育週間の実施など、様々な取り組みが保護者にもしっかりと伝わっている。今後も継続して丁寧に進めていきたい。

△「児童の健康の保持・増進」と「安心・安全な学校づくり」については、保護者・教員と比較して児童の自己評価が若干低い。学級が児童にとって安心して過ごせる場所になるよう、引き続き取り組んでいく必要がある。

## 4 郷土愛の育成



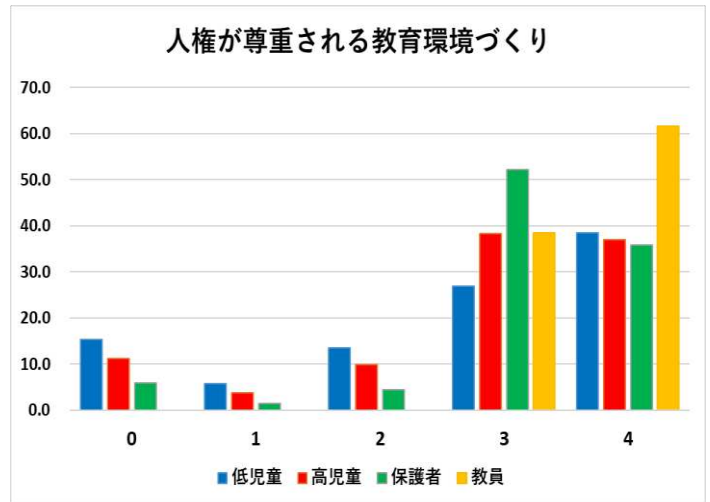
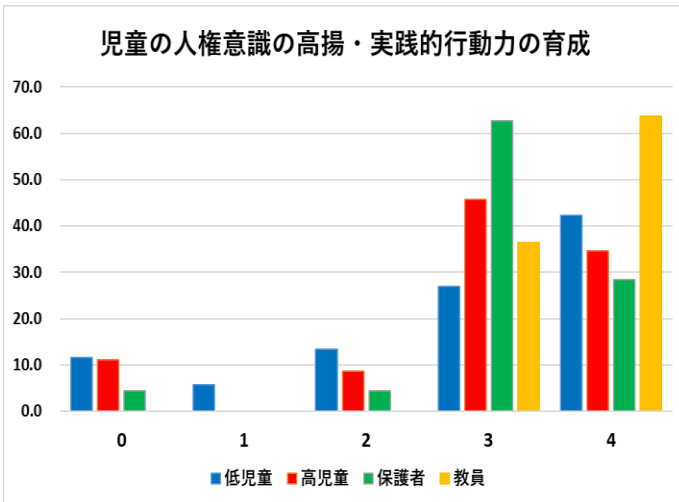
### 【成果（○）と課題（△）】

○「郷土に学び郷土を愛する児童」については、評価3以上の割合が保護者と教員で9割を超え、昨年と同様に概ねよい評価が得られている。

○高学年児童の評価3以上が昨年度の69%からさらに12%伸びている。2年間で2割増となっており、総合的な学習を中心に地域とのかかわりを大事にした学習を進めてきたことが成果につながっていることがうかがえる。

△わからないと回答する児童が一定数おり、児童が郷土に関する理解や愛情の高まりを実感することができるような指導の工夫に引き続き取り組んでいく必要がある。

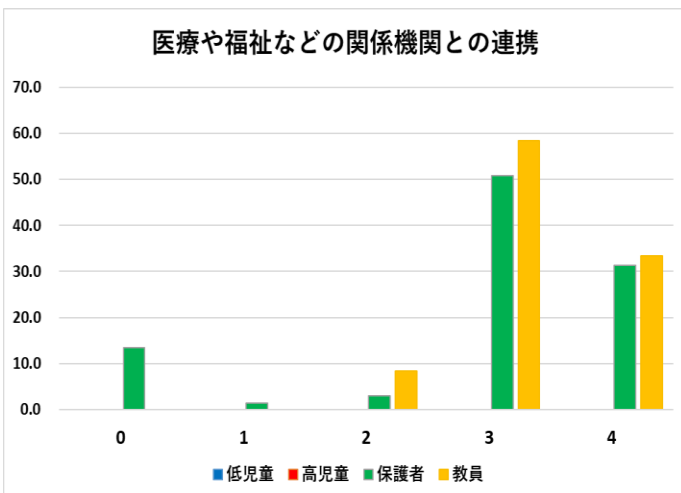
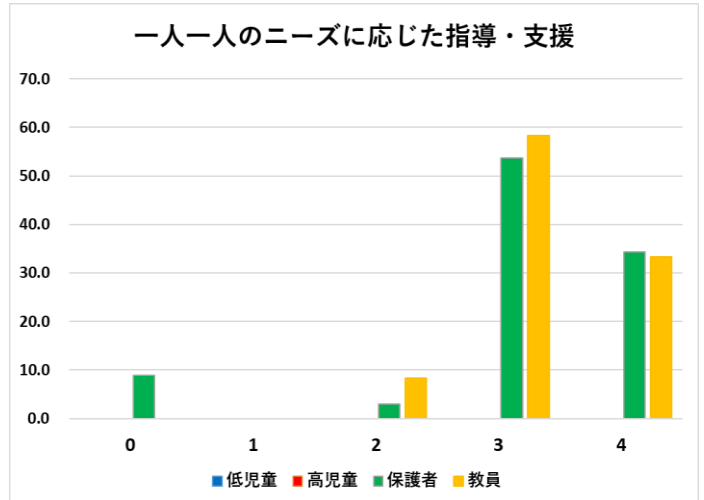
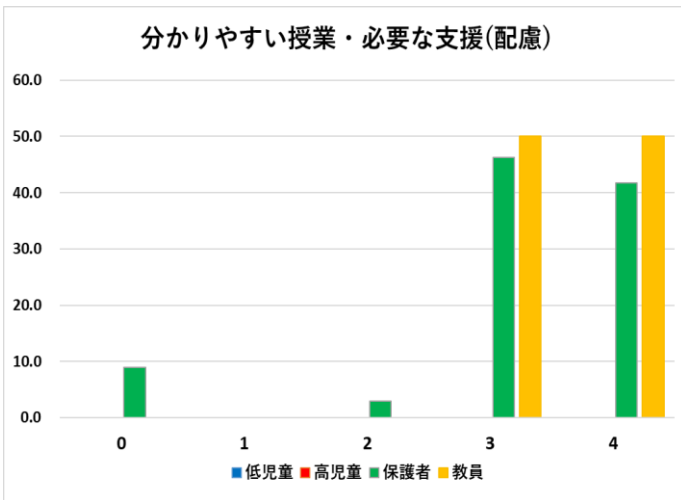
## 5 人権教育の充実



### 【成果（○）と課題（△）】

- 保護者の評価は「児童の人権意識の高揚・実践的行動力の育成」については91%、「人権が尊重される教育環境づくり」については88%と、いずれも概ねよい評価が得られている。
- 教員の自己評価はいずれも100%となっている。学校総体で取り組みを進めていることや、校内研修での様々な学びの機会が、教員自身の実践の手ごたえにつながっていると考えられる。
- △「児童の人権意識の高揚・実践的行動力の育成」「人権が尊重される教育環境づくり」のいずれも、保護者・教員の評価と比べて、児童の評価が若干低くなっている。学級が児童にとって安心して過ごせる場所になるよう、引き続き取り組んでいく必要がある。

## 6 特別支援教育の充実



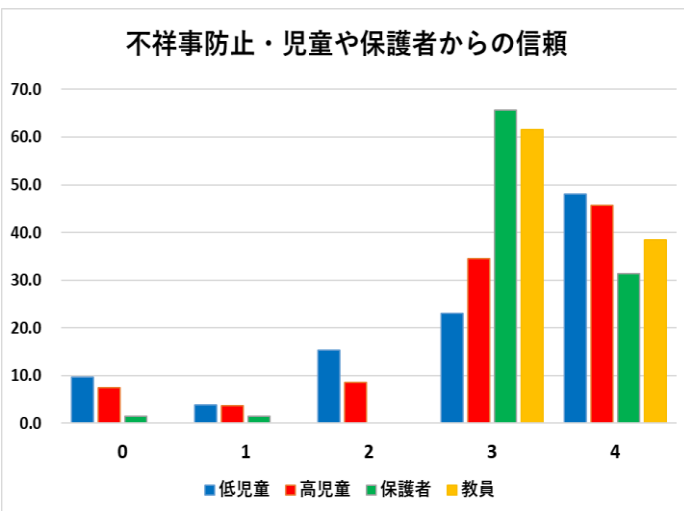
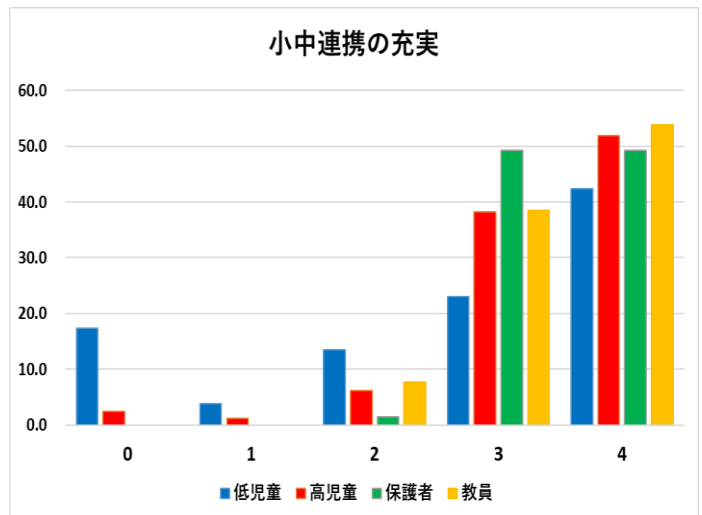
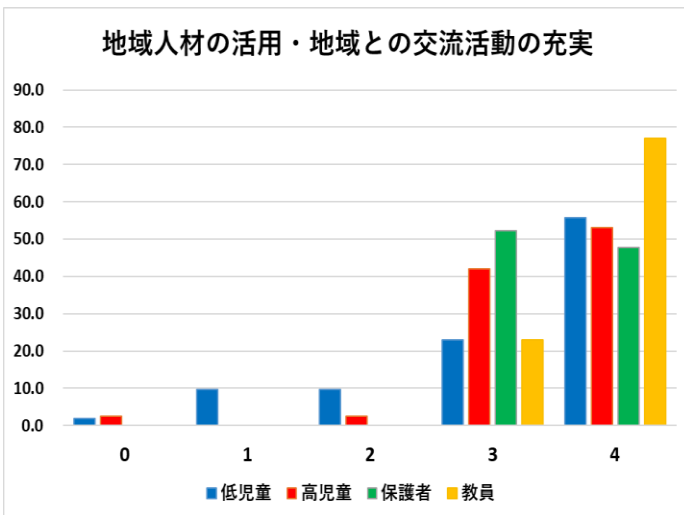
### 【成果 (○) と課題 (△)】

※ここでは、低学年・高学年児童の回答はありません。

○「分かりやすい授業づくり・必要な支援(配慮)」「一人一人のニーズに応じた指導・支援」「医療や福祉などの関係機関との連携」のいずれも、保護者・職員の評価が前年度からさらに伸びている。今年から始まった通級指導教室「スマイル教室」の効果的な運用や、外部から講師を招いての特別支援教育の研修の実施、SCやSSW・湯前町福祉課など外部関係機関との連携など、具体的な手立てが実感につながっているものとする。

△保護者の回答には、「わからない」とする回答が一定数いる。対象児童の保護者以外への情報発信は難しい面がある。引き続き丁寧に取り組みを進めていく。

## 7 地域とともにある学校づくり



### 【成果（○）と課題（△）】

- 「地域人材の活用・地域の方との交流活動の充実」「小中連携の充実」については、児童・保護者・教員ともに評価3以上の割合が増加している。特に、保護者は「地域人材の活用・地域の方との交流活動の充実」は100%、「小中連携の充実」は98%と、昨年度からさらに伸びて高い評価をいただいた。地域人材を活用した様々な交流学習や中学校との合同行事、また、高学年での中学校の先生方の乗り入れ授業などの様々な取り組みと、学校HPや各種通信等での情報発信がしっかり伝わっているものとする。
- 「児童や保護者からの信頼」については、保護者の評価3以上の割合が前年度からさらに増えて9割を超えた。信頼関係の構築は本校教育の土台でもあり、引き続き学校総体で取り組んでいく。